

動的計画が表現する数理計画問題について

九大 理 岩本 誠一

§1. 動的計画の記述

有限段確定的動的計画は一般に次の6つの組で記述さ

れる [5,8] :

(Opt , $\{S_n\}_{1 \leq n \leq N+1}$, $\{A_n\}_{1 \leq n \leq N}$, $\{g_n\}_{1 \leq n \leq N}$, τ , $\{T_n\}_{1 \leq n \leq N}$)

ただし (i) N: 正整数, 段の数

(ii) S_n : P_n 次元ユークリッド空間 R^{P_n} の空でない部分集合,

第n状態空間

(iii) A_n : S_n から R^{B_n} の部分集合 A_n への点対集合値写像.

すなわち $A_n: S_n \rightarrow 2^{A_n}$. ただし $2^A = \{\text{集合}$

A の空でない部分集合} ($A_n \ni A_n(s_n)$ を 状態

$s_n \in S_n$ における可能なアクション空間, 集合

A_n を第nアクション空間という。(注) A_n を集合

と写像の両方に用いている。

(iv) $g_n: \text{graph}(A_n) \times \text{range}(g_{n+1}) \rightarrow R'$ $1 \leq n \leq N-1$

$$g_N : \text{graph}(A_N) \times \text{range}(k) \rightarrow R'$$

ここで $\text{graph}(A_n) \equiv \{(s_n, a_n) \in S_n \times A_n \mid a_n \in A_n(s_n), s_n \in S_n\}$

$\text{range}(g_n) \equiv \{g_n(s_n, a_n; g_{n+1}) \mid (s_n, a_n, g_{n+1}) \in \text{graph}(A_n) \times \text{range}(g_{n+1})\} \quad 1 \leq n \leq N-1$

$\text{range}(g_N) \equiv \{g_N(s_N, a_N; k) \mid (s_N, a_N, k) \in \text{graph}(A_N) \times \text{range}(k)\}$

$g_n(g_N)$ を 第n(N)利得関数 という。

さらに $\{g_n\}_{1 \leq n \leq N}$ は次の単調非減少性の仮定を満している：

単調非減少性の仮定： 各 $g_n(s_n, a_n; \cdot) ((s_n, a_n) \in \text{graph}(A_n), 1 \leq n \leq N)$ が \cdot に關して 単調非減少である。

(V) $k : S_{N+1} \rightarrow R'$, 終端利得関数

(vi) $T_n : \text{graph}(A_n) \rightarrow S_{n+1}$, 第n状態交換

(vii) Opt は “Max” か “Min” のいづれか一方を指示する最適子で、次の最適化問題を表現していることを意味する：

(1.1) Optimize $g_1(s_1, a_1; g_2(s_2, a_2; \dots g_N(s_N, a_N; k(s_{N+1})) \dots))$
subject to (i) $T_n(s_n, a_n) = s_{n+1} \quad 1 \leq n \leq N$
(ii) $a_n \in A_n(s_n) \quad 1 \leq n \leq N$.

$\Pi = \{\pi_1, \pi_2, \dots, \pi_N\} : \text{政策} \xleftrightarrow{(\text{def})} \pi_n : S_n \rightarrow A_n, \pi_n(s_n) \in A_n(s_n), s_n \in S_n, 1 \leq n \leq N.$

$\Pi \equiv \text{政策 } \Pi \text{ の全体}$

$\Pi \ni \pi^* = \{\pi_1^*, \pi_2^*, \dots, \pi_N^*\} : \text{最適}$

$\xleftrightarrow{(\text{def})}$ 各初期状態 $s_1 \in S_1$ から始まる上述の N 段動的計画に
対して、アクションの列 $\{\pi_1^*(s_1), \pi_2^*(s_2^*), \pi_3^*(s_3^*), \dots, \pi_N^*(s_N^*)\}$ が最適化問題 (1.1) の最適値に到達するとき。

たゞし $s_2^* = T_1(s_1, \pi_1^*(s_1)), s_3^* = T_2(s_2^*, \pi_2^*(s_2^*)), \dots,$
 $s_N^* = T_{N-1}(s_{N-1}^*, \pi_{N-1}^*(s_{N-1}^*))$

§2. 部分動的計画と再帰式

§1 で定義された N 段動的計画 $(opt, \{S_n\}_{1 \leq n \leq N+1}, \{A_n\}_{1 \leq n \leq N}, \{g_n\}_{1 \leq n \leq N}, \text{及}, \{T_n\}_{1 \leq n \leq N})$ を \mathcal{Q} で表わす。このとき $n=1, 2, \dots, N, N+1$ に対して $(N-n+1)$ 部分動的計画 $\mathcal{Q}_{N-n+1} \in \mathcal{Q}_{N-n+1} = (opt, \{S_m\}_{n \leq m \leq N+1}, \{A_m\}_{n \leq m \leq N}, \{g_m\}_{n \leq m \leq N}, \text{及}, \{T_m\}_{n \leq m \leq N})$ で定義する。

\mathcal{Q}_{N-n+1} は $s_n \in S_n$ を初期状態とする $(N-n+1)$ 段動的計画である。
これは最適化問題

Optimize $g_n(s_n, a_n; g_{n+1}(s_{n+1}, a_{n+1}; \dots, g_N(s_N, a_N; \text{及}, s_{N+1})) \dots))$

(2.1) subject to (i) $T_m(s_m, a_m) = s_{m+1}, n \leq m \leq N$

$$(ii) \quad a_n \in A_m(s_m) \quad n \leq m \leq N$$

を表現している。 (2.1) の最適値を $u^{N-n+1}(s_n)$ で表し、 関数 $u^{N-n+1} : S_n \rightarrow R'$ を $(N-n+1)$ 最適利得関数 といふ。

特に N 部分動的計画 (すなわち $n=1$ のとき) は \mathcal{Q} で与えた N 段動的計画に一致する。 言いかえれば $\mathcal{Q}_N = \mathcal{Q}$ 。 従って 原動的計画の最適値は $u^N(s_1)$ で与えられる。 他方、 0 部分動的計画 (すなわち $n=N+1$ のとき) は最適化要素を含んでいないから、 $u^0(s_{N+1}) = f_k(s_{N+1}) \quad s_{N+1} \in S_{N+1}$ である。 \mathcal{Q}_0 を形式的に：

$$\mathcal{Q}_0 = (\text{Opt}, S_{N+1}, 1, 1, k, 1)$$

と書いておく。ただし 1 は empty mark.

以下の議論においては関数の最適値、 従って最適点は常に存在するものとする。

$(N-n+1)$ 部分動的計画と $(N-n)$ 部分動的計画の最適値 関数 u^{N-n+1}, u^{N-n} の間には次の再帰式が成立する：

定理 1

$$(2.2) \quad u^{N-n+1}(s_n) = \underset{a_n \in A_n(s_n)}{\text{Opt}} g_n(s_n, a_n; u^{N-n}(T_n(s_n, a_n)))$$

$$s_n \in S_n \quad 1 \leq n \leq N$$

$$(2.3) \quad u^0(s_{N+1}) = f_k(s_{N+1})$$

(証明) $n=1$, $Opt = Max$ のときを証明すれば、他の場合も同様だから、十分である。

任意の $s_1 \in S_1$ を固定すると、列 $\{a_n^*\}_{1 \leq n \leq N}$ が存在して

$$(2.4) \quad \left\{ \begin{array}{l} u^N(s_1) = g_1(s_1, a_1^*; g_2(s_2^*, a_2^*; \dots; g_N(s_N^*, a_N^*; t(s_{N+1}^*)) \dots)) \\ T_n(s_n^*, a_n^*) = s_{n+1}^* \quad 1 \leq n \leq N, \quad s_1^* = s_1 \\ a_n^* \in A_n(s_n^*) \end{array} \right.$$

となる。この s_2^* に対しては、 $u^{N-1}(s_2^*)$ の定義より

$$(2.5) \quad g_2(s_2^*, a_2^*; g_3(s_3^*, a_3^*; \dots; g_N(s_N^*, a_N^*; t(s_{N+1}^*)) \dots)) \\ \leqq u^{N-1}(s_2^*).$$

(2.4), (2.5), $g_1(s_1, a_1^*; \dots)$ の単調非減少性より

$$\begin{aligned} u^N(s_1) &= g_1(s_1, a_1^*; g_2(s_2^*, a_2^*; g_3(s_3^*, a_3^*; \dots; g_N(s_N^*, a_N^*; \\ &\quad t(s_{N+1}^*)) \dots))) \\ &\leqq g_1(s_1, a_1^*; u^{N-1}(s_2^*)). \end{aligned}$$

$$T_1(s_1, a_1^*) = s_2^*, \quad a_1^* \in A_1(s_1) \text{ より}$$

$$(2.6) \quad u^N(s_1) \leqq g_1(s_1, a_1^*; u^{N-1}(T_1(s_1, a_1^*))) \\ \leqq \max_{a_1 \in A_1(s_1)} g_1(s_1, a_1; u^{N-1}(T_1(s_1, a_1))).$$

次に $\hat{a}_1 \in A_1(s_1)$ が存在して

$$(2.7) \quad \max_{a_1 \in A_1(s_1)} g_1(s_1, a_1; u^{N-1}(T_1(s_1, a_1))) = g_1(s_1, \hat{a}_1; u^{N-1}(T_1(s_1, \hat{a}_1)))$$

となる。 $T_1(s_1, \hat{a}_1) = \hat{s}_2$ とすると、 \hat{s}_2 を初期状態とする Q_{N-1}

の最適なアクションの列 $\{\hat{a}_n\}_{2 \leq n \leq N}$ が存在する。すなわち

$$u^{N-1}(\hat{s}_2) = g_2(\hat{s}_2, \hat{a}_2; g_3(\hat{s}_3, \hat{a}_3; \dots; g_N(\hat{s}_N, \hat{a}_N; t(\hat{s}_{N+1}))) \dots))$$

$$(2.8) \quad \begin{cases} T_m(\hat{s}_m, \hat{a}_m) = \hat{s}_{m+1} \\ \hat{a}_m \in A_m(\hat{s}_m) \end{cases} \quad 2 \leq m \leq N$$

このとき 列 $\{\hat{a}_n\}_{1 \leq n \leq N}$ は s_1 を初期状態とする \mathcal{Q}_N の可能なアクション列になる。すなわち

$$\begin{cases} T_n(\hat{s}_n, \hat{a}_n) = \hat{s}_{n+1} \\ \hat{a}_n \in A_n(\hat{s}_n) \end{cases} \quad 1 \leq n \leq N, \quad s_1 = \hat{s}_1.$$

よって (2.8), $u^N(s_1)$ の定義より

$$\begin{aligned} (2.9) \quad & g_1(s_1, \hat{a}_1; u^{N-1}(T_1(s_1, \hat{a}_1))) \\ & = g_1(s_1, \hat{a}_1; g_2(\hat{s}_2, \hat{a}_2; g_3(\hat{s}_3, \hat{a}_3; \dots; g_N(\hat{s}_N, \hat{a}_N; k(\hat{s}_{N+1})) \dots))) \\ & \equiv u^N(s_1). \end{aligned}$$

ゆえに (2.7), (2.9) より

$$(2.10) \quad \max_{a_1 \in A_1(s_1)} g_1(s_1, a_1; u^{N-1}(T_1(s_1, a_1))) \equiv u^N(s_1).$$

(2.6), (2.10), $s_1 \in S_1$ が任意より

$$u^N(s_1) = \max_{a_1 \in A_1(s_1)} g_1(s_1, a_1; u^{N-1}(T_1(s_1, a_1))) \quad s_1 \in S_1 //$$

定理2 (2.2) の opt に到達する a_n を $\hat{a}_n(s_n)$ とすれば、政策 $\hat{a} = \{\hat{a}_1, \hat{a}_2, \dots, \hat{a}_N\}$ は原動的計画 \mathcal{Q} の最適政策である。一般に $\{\hat{a}_n, \hat{a}_{n+1}, \dots, \hat{a}_N\}$ は部分動的計画 \mathcal{Q}_{N-n+1} の最適政策である ($1 \leq n \leq N$)。

(証明) $u^0 = k$ より、 $\{\hat{a}_N\}$ が \mathcal{Q}_N の最適政策であることは自明。まず、 $n=N$ のとき

$$(2.11) \quad u^1(s_N) = \underset{a_N \in A_N(s_N)}{\text{Opt}} g_N(s_N, a_N; u^0(T_N(s_N, a_N))) \\ = g_N(s_N, \hat{\pi}_N(s_N); \ell(\hat{s}_{N+1})) \quad s_N \in S_N \\ \text{ただし } \hat{s}_{N+1} = T_N(s_N, \hat{\pi}_N(s_N)).$$

次に $n=N-1$ のとき

$$(2.12) \quad u^2(s_{N-1}) = \underset{a_{N-1} \in A_{N-1}(s_{N-1})}{\text{Opt}} g_{N-1}(s_{N-1}, a_{N-1}; u^1(T_{N-1}(s_{N-1}, a_{N-1}))) \\ = g_{N-1}(s_{N-1}, \hat{\pi}_{N-1}(s_{N-1}); u^1(\hat{s}_N)) \\ \text{ただし } \hat{s}_N = T_{N-1}(s_{N-1}, \hat{\pi}_{N-1}(s_{N-1})).$$

よって (2.11), (2.12) より

$$u^2(s_{N-1}) = g_{N-1}(s_{N-1}, \hat{\pi}_{N-1}(s_{N-1}); g_N(\hat{s}_N, \hat{\pi}_N(\hat{s}_N); \ell(\hat{s}_{N+1}))). \\ \text{ただし } \hat{s}_N = T_{N-1}(s_{N-1}, \hat{\pi}_{N-1}(s_{N-1})), \\ \hat{s}_{N+1} = T_N(\hat{s}_N, \hat{\pi}_N(\hat{s}_N)).$$

しかも $\{\hat{\pi}_{N-1}(s_{N-1}), \hat{\pi}_N(\hat{s}_N)\}$ は s_{N-1} を初期状態とする a_{N-1} の可能なアクション列である。ゆえに 策政 $\{\hat{\pi}_{N-1}, \hat{\pi}_N\}$ は a_{N-1} の最適政策である。以下 逐次議論していくと $\pi = \{\pi_1, \pi_2, \dots, \pi_N\}$ は $a_1 (= a)$ の最適政策になる。!!

定理 3 $\pi^* = \{\pi_1^*, \pi_2^*, \dots, \pi_N^*\}$ が原動的計画 a の最適政策ならば、各 n ($2 \leq n \leq N$) と $s_n \in S_n$ に対して

$$u^N(s_1) = g_1(s_1, \pi_1^*(s_1); g_2(s_2^*, \pi_2^*(s_2^*); \dots; g_n(s_n^*, \pi_n^*(s_n^*); \\ g_{n+1}(s_{n+1}^*, \pi_{n+1}^*(s_{n+1}^*); \dots; g_N(s_N^*, \pi_N^*(s_N^*); \ell(s_{N+1}^*)) \dots) \dots)) \dots \\ = g_1(s_1, \pi_1^*(s_1); g_2(s_2^*, \pi_2^*(s_2^*); \dots; g_{n-1}(s_{n-1}^*, \pi_{n-1}^*(s_{n-1}^*);$$

$$u^{N-n+1}(s_n^*) \dots)$$

である。ただし $T_n(s_n^*, \pi_n^*(s_n^*)) = s_{n+1}^* \quad 1 \leq n \leq N, s_1 = s_1^*$

(証明) $n=2, Opt = Max$ として証明すれば十分である。上半式は自明である。下半式を示す。各 $s_i \in S_i$ に対して $T_1(s_1, \pi_1^*(s_1)) = s_2^*$ とする。 s_2^* から始まる \mathcal{Q}_{N-1} の最適なアクション列を $\{\hat{a}_n\}_{2 \leq n \leq N}$ とすると

$$u^{N-1}(s_2^*) = g_2(s_2^*, \hat{a}_2; g_3(\hat{s}_3, \hat{a}_3; \dots; g_N(\hat{s}_N, \hat{a}_N; h(\hat{s}_{N+1})) \dots))$$

ただし $T_m(\hat{s}_m, \hat{a}_m) = \hat{s}_{m+1}, \hat{a}_m \in A_m(\hat{s}_m) \quad 2 \leq m \leq N, \hat{s}_2 = s_2^*$.

$$\begin{aligned} \text{よって } & g_2(s_2^*, \pi_2^*(s_2^*); g_3(s_3^*, \pi_3^*(s_3^*); \dots; g_N(s_N^*, \hat{a}_N^*; h(s_{N+1}^*)) \dots)) \\ & \equiv g_2(s_2^*, \hat{a}_2; g_3(\hat{s}_3, \hat{a}_3; \dots; g_N(\hat{s}_N, \hat{a}_N; h(\hat{s}_{N+1}))) \dots)) \\ & = u^{N-1}(s_2^*). \end{aligned}$$

$g_1(s_1, \pi_1^*(s_1)) \dots$ の非減少性と上半式より

$$\begin{aligned} (2.13) \quad u^N(s_1) &= g_1(s_1, \pi_1^*(s_1); g_2(s_2^*, \pi_2^*(s_2^*); \dots; g_N(s_N^*, \pi_N^*(s_N^*); \\ &\quad h(s_{N+1}^*)) \dots)) \\ &\equiv g_1(s_1, \pi_1^*(s_1); g_2(s_2^*, \hat{a}_2; \dots; g_N(\hat{s}_N, \hat{a}_N; h(\hat{s}_{N+1}))) \dots)) \\ &= g_1(s_1, \pi_1^*(s_1); u^{N-1}(s_2^*)). \end{aligned}$$

しかも アクション列 $\{\pi_1^*(s_1), \hat{a}_2, \hat{a}_3, \dots, \hat{a}_N\}$ は s_1 から始まる \mathcal{Q} の可能なアクション列であるから

$$(2.14) \quad g_1(s_1, \pi_1^*(s_1); g_2(s_2^*, \hat{a}_2; \dots; g_N(\hat{s}_N, \hat{a}_N; h(\hat{s}_{N+1}))) \dots)) \leq u^N(s_1)$$

よって (2.13), (2.14) より

$$u^N(s_1) = g_1(s_1, \pi_1^*(s_1); u^{N-1}(s_2^*)) \quad \text{ただし } s_2^* = T_1(s_1, \pi_1^*(s_1))!!$$

定理1, 2, 3は利得系の再帰性と単調非減少性の下で成立していた。定理3は最適性の弱原理[5]と言うべきものである。いわゆる最適性の原理[1]は、単調非減少性の仮定を狭義増加性の仮定に強めたとき、成立する：

狭義増加性の仮定 各 $g_n(s_n, a_n; \cdot)$ ($(s_n, a_n) \in \text{graph}(A_n)$
 $1 \leq n \leq N$) が \cdot に関する狭義増加である。

定理4 狹義増加性の仮定を設ける。 $\pi^* = \{\pi_1^*, \pi_2^*, \dots, \pi_N^*\}$ が原動的計画 \mathcal{Q} の最適政策ならば、各 n ($1 \leq n \leq N$) に対して部分政策 $\{\pi_n^*, \pi_{n+1}^*, \dots, \pi_N^*\}$ は $(N-n+1)$ 部分動的計画 \mathcal{Q}_{N-n+1} の最適政策である。

(証明) 定理3において・の関数 $g_1(s_1, \pi_1^*(s_1); g_2(s_2, \pi_2^*(s_2); \dots; g_{n-1}(s_{n-1}, \pi_{n-1}^*(s_{n-1}); \cdot) \dots))$ が狭義増加であることより、

$$u^{N-n+1}(s_n^*) = g_n(s_n^*, \pi_n^*(s_n^*); g_{n+1}(s_{n+1}^*, \pi_{n+1}^*(s_{n+1}^*); \dots; g_N(s_N^*, \pi_N^*(s_N^*); t(s_{N+1}^*)) \dots))$$

$$2 \leq n \leq N$$

ゆえに $\{\pi_n^*, \pi_{n+1}^*, \dots, \pi_N^*\}$ は s_n^* から始まる \mathcal{Q}_{N-n+1} の最適政策である。ここに s_n^* は s_1 から始めて政策 $\{\pi_1^*, \pi_2^*, \dots, \pi_{n-1}^*\}$ に従った第 n 状態である。!!

§3. 標準的な数理計画問題の表現

実数 $d < e$ に対して $\langle d, e \rangle$ を d, e を端点とする任意の区

間とする。直積 $E = \langle d_1, e_1 \rangle \times \langle d_2, e_2 \rangle \times \cdots \times \langle d_N, e_N \rangle \subset R^N$ の区間として与えておく [9] :

連続関数 $f: E \rightarrow R'$ が E 上の再帰型関数

$$\xrightleftharpoons{\text{(def)}} f(x_1, x_2, \dots, x_N) = f_1(x_1; f_2(x_2; \dots; f_{N-1}(x_{N-1}; f_N(x_N)) \dots))$$

と書けて、 $f_n: \langle d_n, e_n \rangle \times \text{range}(f_{n+1}) \rightarrow R'$ 連続 $1 \leq n \leq N-1$
 $f_N: \langle d_N, e_N \rangle \rightarrow R'$ 連続。

となる。ただし $\text{range}(f_N) \equiv \{f_N(x_N) \mid x_N \in \langle d_N, e_N \rangle\}$

$$\text{range}(f_n) \equiv \{f_N(x_n; y) \mid (x_n, y) \in \langle d_n, e_n \rangle \times \text{range}(f_{n+1})\} \quad 1 \leq n \leq N-1$$

再帰型関数 $f: E \rightarrow R'$ が E 上で非減少性をもつ

再帰型関数

$\xrightleftharpoons{\text{(def)}}$ 各 $f_n(x_n; \cdot)$ ($x_n \in \langle d_n, e_n \rangle$ $1 \leq n \leq N-1$) が \cdot に関する非減少で、 $f_N(\cdot)$ が狭義増加。

更に、各 $f_n(x_n; \cdot)$ が狭義増加のとき、 E 上で狭義増加性をもつ再帰型関数という。

$\langle d_1, e_1 \rangle \times \langle d_2, e_2 \rangle$ 上で非減少性をもつ再帰型関数 $f: \langle d_1, e_1 \rangle \times \langle d_2, e_2 \rangle \rightarrow R'$ が 最大(小)型関数

$\xrightleftharpoons{\text{(def)}}$ $f(x, y) = f_1(x; f_2(y)) = \max(g_1(x), g_2(y))$ ($= \min(g_1(x), g_2(y))$) と書けて、 $g_i: \langle d_i, e_i \rangle \rightarrow R'$ 狹義単調となる。

2変数関数 $f: X \times Y \rightarrow Z$ に対して 1変数関数 $f^x: Y \rightarrow$

Z , $f_y : X \rightarrow Z$ と

$$f^x(y) \equiv f(x, y), f_y(x) \equiv f(x, y) \quad (x \in X, y \in Y)$$

で定義しておく。

$N, E = \langle d_1, e_1 \rangle \times \langle d_2, e_2 \rangle \times \cdots \times \langle d_N, e_N \rangle$ を与えておく。

$f, g_i (1 \leq i \leq p), g, f_j (1 \leq j \leq q) : E \rightarrow R'$ はすべて E 上で狭義増加性をもつ再帰型関数とする。このとき次の数理計画問題 I, II を考える [9] :

問題 I Maximize $f(x_1, x_2, \dots, x_N)$

$$\text{subject to (1)} \quad g_1(x_1, x_2, \dots, x_N) \leq c_1 (\in \text{range}(g_1))$$

$$(2) \quad g_2(x_1, x_2, \dots, x_N) \leq c_2 (\in \text{range}(g_2))$$

⋮

$$(p) \quad g_p(x_1, x_2, \dots, x_N) \leq c_p (\in \text{range}(g_p))$$

$$(p+1) \quad x_n \in \langle d_n, e_n \rangle \quad 1 \leq n \leq N$$

問題 II Minimize $g(y_1, y_2, \dots, y_N)$

$$\text{subject to (1)} \quad f_1(y_1, y_2, \dots, y_N) \geq d_1 (\in \text{range}(f_1))$$

$$(2) \quad f_2(y_1, y_2, \dots, y_N) \geq d_2 (\in \text{range}(f_2))$$

⋮

$$(q) \quad f_q(y_1, y_2, \dots, y_N) \geq d_q (\in \text{range}(f_q))$$

$$(q+1) \quad y_n \in \langle d_n, e_n \rangle \quad 1 \leq n \leq N$$

f, g_i, g, f_j に対する上記の仮定より

$$f(x_1, x_2, \dots, x_N) = f_1(x_1; f_2(x_2; \dots; f_{N-1}(x_{N-1}; f_N(x_N)) \dots))$$

$$g_i(x_1, x_2, \dots, x_N) = g_{i1}(x_1; g_{i2}(x_2; \dots; g_{i,N-1}(x_{N-1}; g_{iN}(x_N)) \dots))$$

$$g(y_1, y_2, \dots, y_N) = g_1(y_1; g_2(y_2; \dots; g_{N-1}(y_{N-1}; g_N(y_N)) \dots))$$

$$f_j(y_1, y_2, \dots, y_N) = f_{j1}(y_1; f_{j2}(y_2; \dots; f_{j,N-1}(y_{N-1}; f_{jN}(y_N)) \dots))$$

と書いて $f_n^x, g_{in}^x, g_n^y, f_{jn}^y$ は連続狭義増加関数である。

定理 5 問題 I, II はそれぞれ N 段動的計画 $\mathcal{Q}^I = (\text{Max},$

$$\{S_n\}_{1 \leq n \leq N+1}, \{A_n\}_{1 \leq n \leq N}, \{g_m\}_{1 \leq m \leq N}, \text{ たる } \{T_n\}_{1 \leq n \leq N}), \quad \mathcal{Q}^I = (\text{Min}, \{S'_n\}_{1 \leq n \leq N+1}, \{A'_n\}_{1 \leq n \leq N}, \{g'_m\}_{1 \leq m \leq N}, \text{ たる } \{T'_n\}_{1 \leq n \leq N})$$

で表現できる。ただし

$$s = (c_1, c_2, \dots, c_p), \quad a = x$$

$$S_n = \text{range}(g_{1n}) \times \text{range}(g_{2n}) \times \dots \times \text{range}(g_{pn}), \quad A_n = \langle d_n, e_n \rangle$$

$$A_n(\underbrace{c_1, c_2, \dots, c_p}_{d_n}) = \{x \in \langle d_n, e_n \rangle \mid (g_{in}^x)^{-1}(c_i) \in \text{range}(g_{i,n+1}) \quad 1 \leq i \leq p\}$$

$$1 \leq n \leq N-1,$$

$$A_N(\underbrace{c_1, c_2, \dots, c_p}_{d_N}) = \{x \in \langle d_N, e_N \rangle \mid g_{in}(x) \leq c_i \quad 1 \leq i \leq p\}$$

$$T_n((\underbrace{c_1, c_2, \dots, c_p}_{d_n}), \underline{x}) = ((g_{1n}^x)^{-1}(c_1), (g_{2n}^x)^{-1}(c_2), \dots, (g_{pn}^x)^{-1}(c_p))$$

$$1 \leq n \leq N-1$$

$$T_N((\underbrace{c_1, c_2, \dots, c_p}_{d_N}), \underline{x}) = S_{N+1} \text{ の任意の元} \quad (\text{ただし } S_{N+1} \text{ は任意の集合})$$

$$g_n(\underbrace{(c_1, c_2, \dots, c_p)}_{s_n}, \underbrace{x}_{a_n}; g_{n+1}) = f_n(x; g_{n+1}) \quad 1 \leq n \leq N-1$$

$$g_N(\underbrace{(c_1, c_2, \dots, c_p)}_{s_N}, \underbrace{x}_{a_N}; f_k) = f_N(x)$$

$$f_k(s_{N+1}) = 0 \quad (\text{実は任意でよい})$$

$$s = (d_1, d_2, \dots, d_g), \quad a = y$$

$$S'_n = \text{range}(f_{1n}) \times \text{range}(f_{2n}) \times \dots \times \text{range}(f_{gn}), \quad A'_n = \langle d_n, e_n \rangle$$

$$A'_n(d_1, d_2, \dots, d_N) = \{y \in \langle d_n, e_n \rangle \mid (f_{jn}^y)^{-1}(d_j) \in \text{range}(f_{j, n+1}) \quad 1 \leq j \leq g\}$$

$1 \leq n \leq N-1,$

$$A'_N(d_1, d_2, \dots, d_N) = \{y \in \langle d_N, e_N \rangle \mid f_{jN}(y) \geq d_j \quad 1 \leq j \leq g\}$$

$$T'_n((d_1, d_2, \dots, d_N), y) = ((f_{1n}^y)^{-1}(d_1), (f_{2n}^y)^{-1}(d_2), \dots, (f_{gn}^y)^{-1}(d_g))$$

$1 \leq n \leq N-1$

$T'_N((d_1, d_2, \dots, d_N), y) = S'_{N+1}$ の任意の元 (ただし S'_{N+1} は任意の集合)

$$g'_n((d_1, d_2, \dots, d_N), y; g'_{n+1}) = g_n(y; g'_{n+1}) \quad 1 \leq n \leq N-1$$

$$g'_N((d_1, d_2, \dots, d_N), y; f_k) = g_N(y)$$

$$f'_k(d_1, d_2, \dots, d_N) = 0 \quad (\text{実は任意でよい})$$

Remark 問題 I, II はそれぞれ (N-1) 段動的計画で表現

できる: ただし f_k, f'_k 以外は上述の通りであるが, f_k, f'_k

は

$$\underbrace{f(c_1, c_2, \dots, c_p)}_{s_N} = f_N(\min_{1 \leq i \leq p} (g_{iN})^{-1}(c_i))$$

$$\underbrace{f'(d_1, d_2, \dots, d_g)}_{s_N} = g_N(\max_{1 \leq j \leq g} (f_{jN})^{-1}(d_j))$$

とする。

\mathcal{Q}^I , \mathcal{Q}^{II} の $(N-n+1)$ 部分動的計画 \mathcal{Q}_{N-n+1}^I , \mathcal{Q}_{N-n+1}^{II} はそれぞれ次の最大値問題, 最小値問題を表現している:

部分問題 I ($N-n+1$)

$$\text{Max } f_n(x_n; f_{n+1}(x_{n+1}; \dots; f_{N-1}(x_{N-1}; f_N(x_N)) \dots))$$

$$\text{s.t. (1) } g_{1n}(x_n; g_{1,n+1}(x_{n+1}; \dots; g_{1,N-1}(x_{N-1}; g_{1N}(x_N)) \dots)) \leq c_1$$

$$(2) g_{2n}(x_n; g_{2,n+1}(x_{n+1}; \dots; g_{2,N-1}(x_{N-1}; g_{2N}(x_N)) \dots)) \leq c_2$$

:

$$(P) g_{pn}(x_n; g_{p,n+1}(x_{n+1}; \dots; g_{p,N-1}(x_{N-1}; g_{pN}(x_N)) \dots)) \leq c_p$$

$$(p+1) x_m \in (d_m, e_m) \quad n \leq m \leq N$$

部分問題 II ($N-n+1$)

$$\text{Min } g_n(y_n; g_{n+1}(y_{n+1}; \dots; g_{N-1}(y_{N-1}; g_N(y_N)) \dots))$$

$$\text{s.t. (1) } f_{1n}(y_n; f_{1,n+1}(y_{n+1}; \dots; f_{1,N-1}(y_{N-1}; f_{1N}(y_N)) \dots)) \geq d_1$$

$$(2) f_{2n}(y_n; f_{2,n+1}(y_{n+1}; \dots; f_{2,N-1}(y_{N-1}; f_{2N}(y_N)) \dots)) \geq d_2$$

:

$$(g) f_{gn}(y_n; f_{g,n+1}(y_{n+1}; \dots; f_{g,N-1}(y_{N-1}; f_{gN}(y_N)) \dots)) \geq d_g$$

$$(g+1) y_m \in (d_m, e_m) \quad n \leq m \leq N.$$

$u^{N-n+1} : S_n \rightarrow R'$, $v^{N-n+1} : S'_n \rightarrow R'$ をそれぞれ \mathcal{Q}^I , \mathcal{Q}^II に対する
第 $(N-n+1)$ 最適利得関数とすれば, $u^{N-n+1}(c_1, c_2, \dots, c_p)$, v^{N-n+1}
 (d_1, d_2, \dots, d_g) はそれぞれ部分問題 I($N-n+1$), II($N-n+1$) の最大
値, 最小値を表している。定理 1 より次の系が得られる:

系 (i) $u^0(c_1, c_2, \dots, c_p) = 0$

$$\begin{aligned} u'(c_1, c_2, \dots, c_p) &= f_N(\min_{1 \leq i \leq p} (g_{iN})^{-1}(c_i)) \\ u^{N-n+1}(c_1, c_2, \dots, c_p) &= \max_{\substack{x_n \in (d_n, e_n) \\ (g_{iN}^{x_n})^{-1}(c_i) \in \text{range}(g_{i,n+1})}} f_n(x_n; u^{N-n}((g_{1n}^{x_n})^{-1}(c_1), (g_{2n}^{x_n})^{-1}(c_2), \dots, \\ &\quad (g_{pn}^{x_n})^{-1}(c_p))) \\ &\quad 1 \leq n \leq N-1 \end{aligned}$$

(ii) $v^0(d_1, d_2, \dots, d_g) = 0$

$$\begin{aligned} v'(d_1, d_2, \dots, d_g) &= g_N(\max_{1 \leq j \leq g} (f_{jn})^{-1}(d_j)) \\ v^{N-n+1}(d_1, d_2, \dots, d_g) &= \min_{\substack{y_n \in (d_n, e_n) \\ (f_{jn}^{y_n})^{-1}(d_j) \in \text{range}(f_{j,n+1})}} g_n(y_n; v^{N-n}((f_{1n}^{y_n})^{-1}(d_1), (f_{2n}^{y_n})^{-1}(d_2), \dots, \\ &\quad (f_{gn}^{y_n})^{-1}(d_g))) \\ &\quad 1 \leq n \leq N-1 \end{aligned}$$

一般に, \mathcal{Q}^I の最適利得関数 $\{u^0, u^1, \dots, u^N\}$ と最適政策 $\{\pi_1^*, \pi_2^*, \dots, \pi_N^*\}$, \mathcal{Q}^II の最適利得関数 $\{v^0, v^1, \dots, v^N\}$ と最適政策 $\{\hat{\delta}_1, \hat{\delta}_2, \dots, \hat{\delta}_N\}$ を解析的に(すなわち $(c_1, c_2, \dots, c_p), (d_1, d_2, \dots, d_g)$ の
関数として)求めるることは困難である。しかし、求まれば,
問題 I の最大値は $u^N(c_1, c_2, \dots, c_p)$ で与えられ、それを与える点
(最大点) $(x_1^*(c_1, c_2, \dots, c_p), x_2^*(c_1, c_2, \dots, c_p), \dots, x_N^*(c_1, c_2, \dots, c_p))$
は再帰的:

$$x_1^*(c_1, c_2, \dots, c_p) = \pi_1^*(c_1, c_2, \dots, c_p)$$

$$x_2^*(c_1, c_2, \dots, c_p) = \pi_2^*(T_1((c_1, c_2, \dots, c_p), x_1^*(c_1, c_2, \dots, c_p)))$$

⋮

$$x_N^*(c_1, c_2, \dots, c_p) = \pi_N^*(T_{N-1} \cdots T_2(T_1((c_1, c_2, \dots, c_p), x_1^*(c_1, c_2, \dots, c_p))),$$

$$x_2^*(c_1, c_2, \dots, c_p)), \dots, x_{N-1}^*(c_1, c_2, \dots, c_p))$$

で与えられる。同様に、問題Ⅱの最小値は $v^N(d_1, d_2, \dots, d_g)$ で与えられ、その最小点 $(\hat{y}_1(d_1, d_2, \dots, d_g), \hat{y}_2(d_1, d_2, \dots, d_g), \dots, \hat{y}_N(d_1, d_2, \dots, d_g))$ も再帰的に

$$\hat{y}_1(d_1, d_2, \dots, d_g) = \hat{\sigma}_1(d_1, d_2, \dots, d_g)$$

$$\hat{y}_2(d_1, d_2, \dots, d_g) = \hat{\sigma}_2(T'_1((d_1, d_2, \dots, d_g), \hat{y}_1(d_1, d_2, \dots, d_g)))$$

⋮

$$\hat{y}_N(d_1, d_2, \dots, d_g) = \hat{\sigma}_N(T'_{N-1} \cdots T'_2(T'_1((d_1, d_2, \dots, d_g), \hat{y}_1(d_1, d_2, \dots, d_g)),$$

$$\hat{y}_2(d_1, d_2, \dots, d_g)), \dots, \hat{y}_{N-1}(d_1, d_2, \dots, d_g))$$

で与えられる。これがいわゆる動的計画法に基づく解法である。

次の例題 1, 2 は問題 I, II の特別な場合である [9] :

例題 1 $\text{Max } b_1 x_1^{p_1} + b_2 x_2^{p_2} + \dots + b_n x_n^{p_n}$

$$\text{s.t. (1)} \quad a_{11} x_1^{q_{11}} + a_{12} x_2^{q_{12}} + \dots + a_{1n} x_n^{q_{1n}} \leqq c_1 \quad (\geqq 0)$$

$$(2) \quad a_{21} x_1^{q_{21}} + a_{22} x_2^{q_{22}} + \dots + a_{2n} x_n^{q_{2n}} \leqq c_2 \quad (\geqq 0)$$

⋮

$$(m) \quad a_{m1} x_1^{q_{m1}} + a_{m2} x_2^{q_{m2}} + \dots + a_{mn} x_n^{q_{mn}} \leqq c_m \quad (\geqq 0)$$

$$(m+1) \quad x_1, x_2, \dots, x_n \geq 0$$

例題 2 $\text{Min } C_1 y_1^{g_1} + C_2 y_2^{g_2} + \dots + C_m y_m^{g_m}$

s.t. (1)' $d_{11} y_1^{p_{11}} + d_{12} y_2^{p_{12}} + \dots + d_{1m} y_m^{p_{1m}} \geq b_1 (\geq 0)$

(2)' $d_{21} y_1^{p_{21}} + d_{22} y_2^{p_{22}} + \dots + d_{2m} y_m^{p_{2m}} \geq b_2 (\geq 0)$

(n)' $d_{n1} y_1^{p_{n1}} + d_{n2} y_2^{p_{n2}} + \dots + d_{nm} y_m^{p_{nm}} \geq b_n (\geq 0)$

(n+1)' $y_1, y_2, \dots, y_m \geq 0$

ただし $P_j, b_j, g_{ij}, a_{ij} > 0, g_i, c_i, P_{ji}, d_{ji} > 0 \quad 1 \leq i \leq m, 1 \leq j \leq n.$

勿論、例題 1, 2 に対しても動的計画に基づいて解くことができる。特に $P_i = g_i = g_{ij} = P_{ji} = 1 \quad 1 \leq i \leq m \quad 1 \leq j \leq n$ のとき、例題 1, 2 は線形計画問題に帰着する。更に $a_{ij} = d_{ji} \quad 1 \leq i \leq m, 1 \leq j \leq n$ ならば、例題 1, 2 は線形計画問題として互いに双対問題になっている。双対定理によれば

$$u^n(C_1, C_2, \dots, C_m) = v^m(b_1, b_2, \dots, b_n)$$

が成立する。

例題 3 ([7, 9]) $\text{Max } x+y$

s.t. (1) $x+y^2 \leq C_1 (\geq 0)$

(2) $2x+y \leq C_2 (\geq 0)$

(3) $x \geq 0, y \geq 0$

これは例題 1 の特別な場合で、2 段動的計画で表現されその最適利得関数 $\{u^0, u^1, u^2\}$ と最適政策 $\{\pi_1^*, \pi_2^*\}$ は次の様

になる：

$$u^o(c_1, c_2) = 0$$

$$u'(c_1, c_2) = \sqrt{c_1} \wedge c_2 \quad (a \wedge b \equiv \min(a, b), a \vee b \equiv \max(a, b))$$

$$\pi_2^*(c_1, c_2) = \sqrt{c_1} \wedge c_2$$

$$u^2(c_1, c_2) = \begin{cases} c_2 \\ \frac{4c_2 + 1 + \sqrt{-8c_2 + 1 + 16c_1}}{8} \\ c_1 + \frac{1}{4} \\ \sqrt{c_1} \end{cases}$$

$$\pi_1^*(c_1, c_2) = \begin{cases} 0 & \text{① } \sqrt{c_1} > c_2 \text{ のとき} \\ \frac{4c_2 - 1 - \sqrt{-8c_2 + 1 + 16c_1}}{8} & \text{② } \sqrt{c_1} \leq c_2, \frac{c_2}{2} \leq c_1 \text{ のとき} \\ c_1 - \frac{1}{4} & \text{③ } \sqrt{c_1} \leq c_2, \frac{c_2}{2} > c_1 \geq \frac{1}{4} \text{ のとき} \\ 0 & \text{④ } \sqrt{c_1} \leq c_2, c_1 < \frac{1}{4} \text{ のとき} \end{cases}$$

従って、例題3は次の最適解をもつ：

$$\left. \begin{array}{l} \textcircled{1} \\ \textcircled{2} \\ \textcircled{3} \\ \textcircled{4} \end{array} \right\} \text{ならいは}, (\pi_1^*(c_1, c_2), \pi_2^*(c_1, c_2)) = \left\{ \begin{array}{l} (0, c_2) \\ \left(\frac{4c_2 - 1 - \sqrt{-8c_2 + 1 + 16c_1}}{8}, \frac{1 + \sqrt{-8c_2 + 1 + 16c_1}}{4} \right) \text{ のとき} \\ \left(c_1 - \frac{1}{4}, \frac{1}{2} \right) \\ (0, \sqrt{c_1}) \end{array} \right.$$

$$\text{最大値 } u^2(c_1, c_2) = \begin{cases} c_2 \\ \frac{4c_2 + 1 - \sqrt{-8c_2 + 1 + 16c_1}}{8} \\ c_1 + \frac{1}{4} \\ \sqrt{c_1} \end{cases} \text{ をもつ //}$$

例題4 ([7]) $\text{Min } 3x_1 + x_2$

$$\text{s.t. (1)' } x_1 + 6x_2 \geq b_1 \quad (\geq 0)$$

$$(2)' \quad 7x_1 + 2x_2 \geq b_2 \quad (\geq 0)$$

$$(3) \quad x_1, x_2 \geq 0$$

これは例題2の特別な場合であり、しかも典型的な線形計画問題である。従って、シンプレックス法でも解ける。しかし、次のように動的計画に基づいて解くことができる：

$$v^0(b_1, b_2) = 0$$

$$v'(b_1, b_2) = \frac{b_1}{6} \vee \frac{b_2}{2}, \quad \hat{\sigma}_2(b_1, b_2) = \frac{b_1}{6} \vee \frac{b_2}{2}$$

$$v^2(b_1, b_2) = \begin{cases} -\frac{1}{2}b_1 + b_2 & \text{① } b_2 \geq 2b_1 \text{ のとき} \\ \frac{b_1 + 17b_2}{40} & \text{② } \frac{1}{3}b_1 \leq b_2 < 2b_1 \text{ のとき} \\ \frac{b_1}{6} & \text{③ } \frac{1}{3}b_1 > b_2 \text{ のとき.} \end{cases}$$

よって

$$\left. \begin{array}{l} \text{①} \\ \text{②} \\ \text{③} \end{array} \right\} \text{ならば, } (\hat{x}_1, \hat{x}_2) = \begin{cases} (b_1, \frac{b_2 - 7b_1}{2}) \\ (\frac{3b_2 - b_1}{20}, \frac{-b_2 + 7b_1}{40}) \\ (0, \frac{1}{6}b_1) \end{cases} \text{ のとき.}$$

$$\text{最小値 } v^2(b_1, b_2) = \begin{cases} -\frac{1}{2}b_1 + \frac{1}{2}b_2 \\ \frac{b_1 + 17b_2}{40} \\ \frac{1}{6}b_1 \end{cases} \text{ と/or //}$$

問題I, IIにおいて 特に $P=g=I$, $f=f_1$, $g=g_1$ の場合を考えると次の問題III, IVになる：

問題III $\text{Max } f(x_1, x_2, \dots, x_N)$

$$\text{s.t. } g(x_1, x_2, \dots, x_N) \leq c$$

$$x_n \in \langle d_n, e_n \rangle \quad 1 \leq n \leq N$$

問題IV $\text{Min } g(y_1, y_2, \dots, y_N)$

$$\text{s.t. } f(y_1, y_2, \dots, y_N) \geq d$$

$$y_n \in \langle d_n, e_n \rangle \quad 1 \leq n \leq N$$

問題III, IV は互いに逆関係にあるといふ ([8, 9]). すなはち、一方を主問題、他方を逆問題といふ。両問題の間には逆定理が成立する —— 一方の解関数（最適値関数と最適点関数）は他方の解関数を逆の意味で特徴づけている ——.

問題III, IV の特別な場合である次の例題 5, 6 は共に線形計画問題である：

例題 5 $\text{Max } \sum_{i=1}^n b_i x_i$

$$\text{s.t. (1)} \quad \sum_{i=1}^n a_i x_i \leq c \quad (\geq 0)$$

$$(2) \quad x_i \geq 0 \quad 1 \leq i \leq n$$

例題 6 $\text{Min } \sum_{i=1}^n a_i y_i$

$$\text{s.t. (1')} \quad \sum_{i=1}^n b_i y_i \geq c \quad (\geq 0)$$

$$(2') \quad y_i \geq 0 \quad 1 \leq i \leq n$$

ただし $a_i > 0, b_i > 0 \quad 1 \leq i \leq n$.

従って、双対問題は例題 5', 6' で表される：

例題 5' $\text{Min } c_y$

$$\text{s.t. (1)} \quad a_1 y \geq b_1$$

$$(2) \quad a_2 y \geq b_2$$

:

$$(n) \quad a_n y \geq b_n$$

$$(n+1) \quad y \geq 0$$

例題 6'

$$\text{Max } cx$$

$$\text{s.t. (1)' } b_1 x \leq a_1$$

$$(2)' \quad b_2 x \leq a_2$$

:

$$(n)' \quad b_n x \leq a_n$$

$$(n+1)' \quad x \geq 0$$

例題 5', 6' の解は容易に求められて、次の通りである：

(3.1) $y^* = \max_{1 \leq i \leq n} \frac{b_i}{a_i}$ のとき、最小値は $(\max_{1 \leq i \leq n} \frac{b_i}{a_i}) \times c$.

(3.2) $x^* = \min_{1 \leq i \leq n} \frac{a_i}{b_i}$ のとき、最大値は $(\min_{1 \leq i \leq n} \frac{a_i}{b_i}) \times c$.

よって、線形計画における双対定理より、例題 5, 6 はそれぞれ (3.1), (3.2) で与えられる解をもつ。しかし、動的計画に基づいて解いても、この解は得られる ([7])。

$f_1(x, y) = \max(x, y^2)$ は R_+^2 上の狭義増加性をもつ再帰型関数ではないが、次の最大値問題を動的計画に基づいて解ける：

例題 7 ([7])

$$\text{Max } x^2 + 2y$$

$$\text{s.t. (1) } \max(x, y^2) \leq C_1, (x \geq 0)$$

$$(2) \quad xy \leq C_2 \quad (x \geq 0)$$

(3) $x, y \geq 0$

§4. 目的関数に状態を含む数理計画問題

§3の数理計画問題では、動的計画で表現されたとき、
その目的関数はアクション（決定）列のみの関数であった。
すなわち

$$g_1(a_1; g_2(a_2; \dots; g_{N-1}(a_{N-1}; g_N(a_N)) \dots))$$

なる型であった。ただし a_n は n 番目のアクションである。

この § では 目的関数に状態をも含む数理計画問題を挙げてみよう。

例題 1. $\text{Max } (bx_1)^2 + (x_1 + bx_2)^2 + \dots + (x_1 + x_2 + \dots + x_{N-1} + bx_N)^2$
 s.t. (i) $x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_N^2 = 1 \quad (b \geq 0)$
 $([1, 2, 3, 6])$

これは次の要素をもつ N 段動的計画で表現される：

$$\text{Max}, \quad s=c, \quad a=x, \quad S_n = R'_+ \quad 1 \leq n \leq N+1, \quad A_n = A_n(c) = [-1, 1]$$

$$1 \leq n \leq N-1, \quad A_N = A_N(c) = \{-1, +1\}, \quad g_n(c, x; g_{n+1}) = (c + bx)^2 + (1 - x^2) g_{n+1} \quad 1 \leq n \leq N, \quad k(c) = 0, \quad T_n(c, x) = \frac{c+x}{\sqrt{1-x^2}},$$

これに対する再帰式は

$$u^{N-n+1}(c) = \max_{-1 \leq x \leq 1} [(c + bx)^2 + (1 - x^2) u^{N-n}\left(\frac{c+x}{\sqrt{1-x^2}}\right)] \quad 1 \leq n \leq N$$

$$u^0(c) = 0$$

になる。求める最大値は $u^N(0)$ で与えられる。

$$\left(\begin{array}{l} u^{N-n+1}(c) \equiv \max_{\substack{1 \leq n \leq N \\ x_n^2 + x_{n+1}^2 + \cdots + x_N^2 = 1}} [(c+bx_n)^2 + (c+bx_n+bx_{n+1})^2 + \cdots + (c+bx_n+\cdots+bx_{N-1}+bx_N)^2] \\ \end{array} \right)$$

$1 \leq n \leq N$ において、再帰式を導く //

例題 2 $\max x_1^2(x_1+bx_2)^2 \cdots (x_1+bx_2+\cdots+bx_{N-1}+bx_N)^2$

s.t. (i) $x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_N^2 = 1 \quad (b \geq 0)$

([1, 2, 3, 6])

これも、次の要素だけ変えれば、例題 1 と同じ動的計画で表現できる：

$$g_n(c, x; g_{n+1}) = (c+x)^2 b^{2(N-n)} (1-x^2)^{N-n} g_{n+1}, \quad g_0(c) = 1,$$

$$T_n(c, x) = \frac{c+x}{b\sqrt{1-x^2}}$$

再帰式は次の様になる：

$$u^{N-n+1}(c) = \max_{-1 \leq x_n \leq 1} [(c+x_n)^2 b^{2(N-n)} (1-x_n^2)^{N-n} \cdot u^{N-n}\left(\frac{c+x_n}{b\sqrt{1-x_n^2}}\right)] \quad 1 \leq n \leq N$$

$$u^0(c) = 1$$

$$\left(\begin{array}{l} u^{N-n+1}(c) \equiv \max_{\substack{1 \leq n \leq N \\ x_n^2 + x_{n+1}^2 + \cdots + x_N^2 = 1}} [(c+x_n)^2 (c+x_n+bx_{n+1})^2 \cdots (c+x_n+\cdots+bx_{N-1}+bx_N)^2] \\ \end{array} \right)$$

$1 \leq n \leq N$ において、再帰式を導く。

求める最大値は $u^N(0)$ で与えられる。

次の問題もそれぞれ動的計画によって表現される [1, 2, 3, 7]

例題 3 $\max x_1^2 + (x_1+ax_2)^2 + [x_2+ax_2+(a+b)x_3]^2 + \cdots$

$$+ \{x_1 + ax_2 + (a+b)x_3 + \cdots + [a+(N-2)b]x_N\}^2$$

$$\text{s.t. (i)} \quad x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_N^2 = 1 \quad (a, b \geq 0)$$

例題4 $\text{Min} \sum_{n=1}^N b_n y_n^2 + 2 \sum_{n=1}^{N-1} a_n y_n y_{n+1}$

$$\text{s.t. (i)} \quad \sum_{n=1}^N y_n^2 = 1 \quad (a_n, b_n : \text{定数})$$

例題5 $\text{Min} \sum_{n=1}^N b_n y_n^2 + 2 \sum_{n=1}^{N-1} a_n y_n y_{n+1} + 2 \sum_{n=1}^{N-2} d_n y_n y_{n+2}$

$$\text{s.t. (i)} \quad \sum_{n=1}^N y_n^2 = 1 \quad (a_n, b_n, d_n : \text{定数})$$

§5. 条件がつかない数理計画問題

§3, 4 で取り扱った数理計画問題は制約条件の下での最適化問題であった。非制約条件つき数理計画問題で、動的計画によって表現できる問題は次のようなものが考えられる（[1, 2, 3, 6, 7]）。

例題1 $\text{Min} \sum_{n=1}^N [\phi_n(y_n) + \psi_n(y_n - y_{n-1})] \quad y_0 = c \quad (\text{定数})$

ただし $\phi_n, \psi_n : R' \rightarrow R'$ は適当な関数

これは次の N段動的計画で表現できる：

$$\text{Min}, \quad s=c, \quad a=y, \quad S_n = A_n = A_n(c) = R',$$

$$g_n(c, y; g_{n+1}) = \phi_n(y) + \psi_n(y - c) + g_{n+1} \quad 1 \leq n \leq N,$$

$$t_n(c) = 0, \quad T_n(c, y) = y \quad 1 \leq n \leq N.$$

再帰式は次の様になり、 $u^N(c)$ が求める最小値である：

$$u^{N-n+1}(c) = \text{Min} [\phi_n(y_n) + \psi_n(y_n - c) + u^{N-n}(y_n)] \quad 1 \leq n \leq N$$

$$u^0(c) = 0$$

$$\left(\begin{array}{l} u^{N-n+1}(c) \equiv \min \left[\sum_{k=n}^N \phi_k(y_k) + \psi_n(y_n - c) + \sum_{k=n+1}^N \psi_k(y_k - y_{k-1}) \right] \quad 1 \leq n \leq N \\ (y_n, y_{n+1}, \dots, y_N) \in R^{N+1-n} \end{array} \right)$$

とおいて、再帰式を導く

$$\text{例題 2} \quad \min \sum_{n=1}^N [\phi_n(y_n) + \psi_n(y_n - y_{n-1}) + \chi_n(y_n - 2y_{n-1} + y_{n-2})]$$

$$\text{ただし } \phi_n, \psi_n, \chi_n : R' \rightarrow R' \quad y_0 = c_1, \quad y_{-1} = c_2 \quad (\text{定数})$$

これは、次の要素以外は前例題と同じ動的計画で表現できる：

$$s = (c_1, c_2), \quad S_n = R^2 \quad 1 \leq n \leq N+1, \quad g_n((c_1, c_2), y; g_{n+1})$$

$$= \phi_n(y) + \psi_n(y - c_1) + \chi_n(y - 2c_1 + c_2) + g_{n+1} \quad 1 \leq n \leq N,$$

$$t_n(c_1, c_2) = 0, \quad T_n((c_1, c_2), y) = (y, c_1) \quad 1 \leq n \leq N.$$

再帰式は次の様になり、 $u^N(c_1, c_2)$ が最小値である：

$$u^{N-n+1}(c_1, c_2) = \min_{y_n \in R'} [\phi_n(y_n) + \psi_n(y_n - c_1) + \chi_n(y_n - 2c_1 + c_2) + u^{N-n}(y_n, c_1)] \quad 1 \leq n \leq N$$

$$u^0(c_1, c_2) = 0$$

$$\text{例題 3} \quad \min (x, Ax) - 2(c, x), \quad \text{ただし } A: N \times N, (\text{対称}), \text{ 正定値}$$

$$c: N \text{ ベクトル}$$

これは次の要素で与えられる N段動的計画で表現される：

$$\min, \quad s_n = (c_1, c_2, \dots, c_{N-n+1}), \quad a_n = x_n, \quad S_n = R^{N-n+1} \quad 1 \leq n \leq N+1,$$

$$A_n = A_n(s_n) = R' \quad 1 \leq n \leq N, \quad g_n(s_n, a_n; g_{n+1}) = g_n((c_1, c_2, \dots, c_{N-n+1}),$$

$$x_n; g_{n+1}) = a_{nn}x_n^2 - 2c_{N-n+1}x_n + g_{n+1}, \quad t_n(s_{N+1}) = t_n(\phi) = 0,$$

$$T_n(s_n, a_n) = T_n((c_1, c_2, \dots, c_{N-n+1}), x_n) = (c_1 - a_{1, N-n+1}x_n,$$

$$c_2 - a_{2,N-n+1}x_n, \dots, c_{N-n} - a_{N-n,N-n+1}x_n) \quad 1 \leq n \leq N.$$

その再帰式は

$$u^n(c_1, c_2, \dots, c_n) = \min_{\substack{x_n \in R^1 \\ 1 \leq n \leq N}} [a_{nn}x_n^2 - 2c_nx_n + u^{n-1}(c_1 - a_{1n}x_n, c_2 - a_{2n}x_n, \dots, c_{n-1} - a_{n-1,n}x_n)]$$

$$u^0(\phi) = 0$$

になる。

例題4 $\min(x, Ax) - 2(b, x)$, ただし $A: N \times N$, Jacobi*,

正定値(対称), $b: N$ ベクトル

次の要素をもつ N 段動的計画で表現される:

$$\min, s_n = c, a_n = x, S_n = R^1 \quad 1 \leq n \leq N+1, A_n = A_n(s_n) = R^1$$

$$1 \leq n \leq N, g_n(c, x; g_{n+1}) = a_{N-n+1, N-n+1}x^2 - 2cx + g_{n+1} \quad 1 \leq n \leq N,$$

$$f_n(s_{N+1}) = 0, T_n(c, x) = b_{N-n} + a_{N-n, N-n+1}x \quad 1 \leq n \leq N.$$

再帰式は

$$u^n(c) = \min_{\substack{x_n \in R^1 \\ 1 \leq n \leq N}} [a_{nn}x_n^2 - 2cx_n + u^{n-1}(b_{n-1} - a_{n-1,n}x_n)]$$

$$u^0(c) = 0$$

になる。

例題1' $\min y_1^2 + y_2^2 + y_3^2 + (y_1 - c)^2 + (y_2 - y_1)^2 + (y_3 - y_2)^2$, c : 定数

(解) $(y_1, y_2, y_3) = (\frac{5}{13}c, \frac{2}{13}c, \frac{1}{13}c)$ のとき最小値 $\frac{8}{13}c^2$ //

* $a_{ij} = 0$ for $|i-j| \geq 2$

例題 3' $\text{Min } x^2 + 2y^2 + 3z^2 - 2xy - 2xz - 2c_1x - 2c_2y - 2c_3z \quad (c_1, c_2, c_3)$:

(定数)

(解) $(x, y, z) = (6c_1 + 3c_2 + 2c_3, 3c_1 + 2c_2 + c_3, 2c_1 + c_2 + c_3)$ のとき、

最小値 $-(2c_1 + c_2 + c_3)^2 - (c_1 + c_2)^2 - (c_1)^2 //$

例題 4' $\text{Min } x^2 + 2y^2 + 2z^2 - 2xy - 2yz - 2bx - 2b_2y - 2b_3z \quad (b_1, b_2, b_3)$:

(定数)

(解) $(x, y, z) = (3b_1 + 2b_2 + b_3, 2b_1 + 2b_2 + b_3, b_1 + b_2 + b_3)$ のとき

最小値 $-(b_1 + b_2 + b_3)^2 - (b_1 + b_2)^2 - (b_1)^2 //$

References

- [1] BELLMAN, R., *Dynamic Programming*, Princeton Univ. Press, Princeton, New Jersey, 1957.
- [2] BELLMAN, R., *Introduction to the Mathematical Theory of Control Processes*, Vol. I, Linear Equations and Quadratic Criteria, Academic Press, New York, 1967.
- [3] BELLMAN, R., *Introduction to Matrix Analysis*, 2nd Ed., McGraw-Hill, New York, 1970.
- [4] BELLMAN, R., *Introduction to the Mathematical Theory of Control Processes*, Vol. II, Nonlinear Processes, Academic Press, New York, 1971.
- [5] FURUKAWA, N. and IWAMOTO, S., Dynamic programming on recursive reward systems, *Bull. Math. Statist.*, 17 (1976), 103-126.
- [6] IWAMOTO, S., "Applications of Recursive Dynamic Programming", unpublished preprint (1975), pp. 310.
- [7] IWAMOTO, S., "Applications of Recursive Programming with Monotonicity", unpublished preprint (1976), pp. 128.
- [8] IWAMOTO, S., Inverse dynamic programming, *Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ. Ser. A, Math.*, 30 (1976), 25-42.
- [9] IWAMOTO, S., Inverse theorem in dynamic programming I, II, III, *J. Math. Anal. Appl.*, to appear.
- [10] NEMHAUSER, G.L., *Introduction to Dynamic Programming*, John Wiley, New York, 1966.